

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272400928		
法人名	有限会社 ピウ		
事業所名	グループホーム ピウ八幡		
所在地	千葉県市原市八幡125-1		
自己評価作成日	平成22年2月15日	評価結果市町村受理日	平成22年5月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成22年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

5階建てのビジネスビルを転用し、介護施設として運営している。建物の3、4階がグループホームのためとても眺望が良く、富士山を一望する事もできる。1、2階にはデイサービスが併設されているため、器械を使用した器械訓練やレクリエーションに参加することができる。また、入居者が安心して生活できる様、母体の医療法人、他医療機関との協力体制も整えているほか、職員の定着率の維持にも力を注いでいる。地域に精通した職員も多く、入居者と地域との橋渡しに貢献できる様努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気があるホームは、職員と管理者が団結して物事に取り組んでいる。職員の定着率が高いことも評価に値する。前回の評価で課題となった研修体制への取り組みは、年間を通じて継続して研修を実施し、職員の意欲や新たな工夫につながっている。管理者とともにホームの運営を支え続けたフロアリーダーに加え、昨夏から新たに加わった介護支援専門員の新しい目が入り、全職員でサービスの質の向上を目指そうとしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価(3階ユニット)および外部評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・優しさ・言葉使い・挨拶」をモットーに地域の中で支えていく、という事業所理念を、職員で共有して実践につなげられる様努めている。	理念は入職時に説明している。掲示もしており、職員は常に意識しながら実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入しており、自治会の敬老会や、年2回のフリーマーケットへの参加、地域の商店の利用や散歩等を通じて交流している。	町会や地域との関わりを大切にしている。この一年間は、隣のカラオケ店に非常災害時の一時避難場所の協力依頼を要請するなど、新たな関係構築にも努めてきた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や年間行事等を地域住民との交流の場として活用し、認知症の理解を互いに深められる様にしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年間行事等の後に行い、家族が発言しやすい雰囲気をつくって、運営推進会議での意見を実際のサービスに活かす様に努めている。	3ヶ月に1回の開催は定着化してきた。現在、行政や民生委員の出席を得るため、毎回働きかけている状況である。マンネリ化を防ぐため、家族中心の日や、系列クリニックのケアマネジャーの参加など、いろいろな視点の意見を聞けるよう工夫している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護者の入居希望も多く、実際に入居している方も多いため、担当者との関わりは日頃からとっている。サービスの中で問題が生じた時も、市町村担当者に協力して頂いている。	最近、行政にホームの実情を報告する機会があったことをきっかけに、更に連携を深めていきたいと考えている。又、年に数回、地域密着型サービス事業者が集まる中核地域生活支援センター会議へも出席し、地域の情報を集めるようにしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修会や法人内での研修会に参加し、内部での研修も行う事で職員全員で共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修だけでなく、普段から何が身体拘束にあたるのかを説明し、職員にはイメージしてもらえるようにしている。身体拘束廃止委員会も設置しており、組織として身体拘束をしないケアを確立したいと考えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会に参加し、内部での研修にて職員全員で共有し、防止に努めている。		

グループホームピウ八幡 自己評価(3階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会に参加し、ミーティングを通して理解を深めている。入居者の中に成年後見制度を利用している方もおり、関係者と話し合う機会を定期的に確保し、理解を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章を通して口頭での説明を行い、不安や疑問点がなくなるまで話し合うように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に相談、苦情窓口を明記している他、年間行事や運営推進会議等で意見、要望を言う機会を設け、そこでの意見を運営に反映させる様、努めている。	ホームでは意思疎通を大切にしており、それは入居者や家族にも伝わっている。要望には、出来る限り迅速に対応するようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日報に職員のアイデアや意見を記入してもらい、ミーティング等で話し合いを設けた後、運営に反映させる様、努めている。	管理者は自由に意見が言える関係を大切に、ミーティング以外でもアイデアを出してもらっている。会議や研修内容は欠席者にも必ず伝わるよう書類を工夫し、必要があれば法人本部にも伝えるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成時に個々の職員の希望をできる限り取り入れる様にしている。また、職員に役割を分担してもらい、ホームを全員で作りにあげていくという実感を持ってもらえる様、努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での新人研修の他、法人内外での各種研修に、職員の希望や能力に合わせて参加を促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中核地域生活支援センター会議への参加の他、他事業者との相互訪問を通して交流できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族との事前面談を通して、これまでの生活スタイルや生活状況を把握できる様にし、環境が変わる不安を極力取り除けるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時に、これまでのストレスやこれからの不安や要望等を言いやすい雰囲気をつくり、入居後もいつでも相談してもらえるような関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族との事前面談の他、ケアマネジャーとの情報交換を行い、他サービスも視野に入れた支援を行えるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や掃除、料理の補助等、一人ひとりに役割分担を設ける事により、生活を共にしている実感を持っていただいている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に電話等で連絡をとりあい、年間行事への参加、日常の買い物や美容院への同伴等、家族の可能な範囲で協力をして頂けるよう、お願いしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友人との電話のやり取りや、年賀状のやり取り等の支援をしたり、馴染みの深い店に同伴する等して、できる限りの支援を行っている。	職員は入居者の馴染みの人や物を把握することに努めている。電話やはがきのやりとりなどは職員が手伝ったり、入居者が好む話題を提供して、大切にしたい記憶が途切れないような配慮もしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立せずに利用者同士が交流できる様、全員での食事を基本にしている他、4階との合同食事会も定期的に行い、利用者同士の関係の支援に努めている。		

グループホームビウ八幡 自己評価(3階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、本人、家族と連絡を取り合える様にし、入居時と変わらない関係が築ける様に努めている。	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中での何気ないコミュニケーションを大切にして、そこから本人の意向や希望を汲める様に努めている。	具体的な言葉かけて本人の意見を引き出し、思いを表出してもらえるように努めている。普段の本人の言葉は個別介護記録に書きとめ、職員間で共有している。意思疎通の困難な入居者に対しては、家族に状況を聴いたり、普段の行動や表情から理解するように努めている。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での生活を感じられる様、使い慣れた日用品やアルバムを持参して頂いている。また、事前面談や日々の会話、以前利用されていた事業所からの情報等をもとに、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の日課や過ごし方も含め、いつもと違う面が見られた時は、個別記録に記入して職員間で共有している。また、毎日のバイタルチェックや食事・水分量・排泄の有無等を記録し、心身状態の把握に努めている。	
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの聞き取りや、ケアマネジャー等関係者からの情報をもとにアセスメントを実施し、カンファレンスを開いて介護計画を作成している。	入居者3人に対して1人ずつ担当の職員が決まっている。職員は入居者本人、家族、関係者等から情報を得て介護計画を作成しているが、提供したサービスの評価が十分とは言えない。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の関わりの中で、気づいた事や変化等を個別記録に記入し、カンファレンスに反映する事で、情報の共有と実践に活かしている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスでの交流や、運動機器を利用して行うパワーリハビリにも参加できるようにしている。また、母体である白金整形外科病院をはじめ、協力医療機関との間で24時間対応の体制を整えている。	

グループホームピウ八幡 自己評価(3階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設や商店等への理解や協力を得るための働きかけや、消防署と共同での防災訓練等、安全で豊かな暮らしのための支援に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医を優先する他、協力医療機関への送迎・付き添いを含めた支援も行い、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関への受診支援はもちろんだが、これまでのかかりつけ医への受診を大切にして、家族が付き添えない場合は、職員が同行している。さらにホームには、週3回法人の母体である白金整形外科より看護師の訪問がある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者の一日の状態等を個別記録に記入し、それをもとに訪問看護師や併設のデイサービスの看護師に伝えて相談し、適切な看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院をスムーズに行うために、母体病院との情報交換は常に行い、入退院時には職員が付き添うようにして、利用者が安心して様に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前面談時に入念に話し合いを行う他、運営推進会議でも話し合う機会を設けている。母体病院との連携にも努め、重度化した時もスムーズに入院ができるように支援している。	入居者の看取りや重度化における対応の基本方針ができており、文書化されている。緊急時に備えての協力医療機関や訪問看護師ステーションの連携体制も整えられている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設のデイサービスでの定期的な研修に参加し、そこで実際に体験する事によって実践力を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防との共同訓練のほか、様々な状況を想定した防災訓練を定期的に行う様に努めている。また、近隣の店舗と非常時の協力体制を築いている。	年2回入居者も含めての避難訓練を併設のデイサービスと合同で実施している。また今年度は隣接する24時間営業のカラオケ店に働きかけ、非常災害時の協力体制を構築した。	ホームが3階・4階にあるため、夜勤専門の職員を含めた夜間を想定した避難訓練や、非常時の職員の役割分担による動線・所要時間のシミュレーションなど、消防署のアドバイスを受けながら、より具体的に綿密な災害対策を考えることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の誇りを損ねないよう、命令口調ではなく優しい声かけを基本としながら、一人ひとりに合わせた対応を心がけている。また、入居者の記録は所定の場所に保管して、プライバシーの確保に努めている。	個人を尊重することや入居者のプライバシーへの配慮については、ミーティング等の機会に職員間で周知し、また日ごろから互いに注意し合っている。排泄・食事介助の際も、さりげなく温かい声かけを心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、本人が意思決定できるような声かけを職員全員で意識している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、できる限り本人のペースを尊重し、起床時間の変更や、個別の外出等、希望に添えるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれの支援として、行きつけの理美容院への送迎、付き添いを行っている。また希望があれば、訪問理美容を利用する事もある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材・メニューの作成は業者に委託しているが、入居者の好みに合わせて調理方法を変えている。月に一度は希望を反映した外食や、行事食を提供している。準備、片付け、食事と一緒にしている。	入居者からのリクエストには、行事の際などに応えるようにしている。お好み焼きをホットプレートで作ったり、最近ではいちご大福を作ったり、入居者が一緒につくる機会も設けている。職員も入居者と会話をしながら一緒に食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや食べやすさに配慮した福祉食を業者に委託している他、食事量や水分量を毎日記録する事で、栄養の管理と水分の確保を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や能力に応じて口腔ケアを行っている。本人専用のタオルや歯磨きセットを使用し、順番を決めて行う事で、習慣化できるようにしている。		

グループホームピウ八幡 自己評価(3階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつを使用している方でもトイレでの排泄を促し、定期的なトイレ誘導を行う事で排泄パターンを把握するよう努め、自立支援を行っている。	職員は個人の生活目標プランの表を用い、排泄パターンを確認しながらトイレ誘導を行っている。この誘導により、トイレへ行くことをしっかり自覚できた入居者もあり、排泄の自立支援につなげている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足を防ぐためにも、散歩を定期的に行ったり、必要であれば器械訓練を行う等して予防に取り組んでいる。本人の状態を毎日観察して、記録に残すことで、便秘の原因を解明できる様に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日や時間は決めているが、できる限り本人の希望にも添えるように努めている。	入浴は週に3回が基本だが、できるだけ本人の希望に添うようにしている。しょうぶ湯、ゆず湯など季節感を取り入れるなど、入浴を楽しめるように工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間を、本人のその時の状態やペースに合わせるようにしている。また、昼食後や外出後の休息も自由に行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容を職員間で共有できる様、服薬チェック表を使用している他、写真付の薬の説明書をファイルに保存している。いつでも確認できる様にしている。内容が変わる都度、個人記録に記入している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野、能力に合わせて、食器洗い・ごみ出し等の役割分担を設けている他、以前からの趣味や嗜好品を持ち込んでいただく事で、張り合いや喜びのある生活を楽しんでいただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の公園への散歩を日課に組み込んだり、利用者の希望に合わせて買い物や外出に出かける等、定期的な外出の機会を設けている。その他お花見や紅葉狩り等、季節毎の外出も行っている他、地域の観光スポットにも不定期で出かけている。	お花見など季節を楽しむ外出の他、地域の観光地へ出かけることも多い。重度化している入居者も、車椅子を用いてできるだけ戸外に出かけられるように支援している。	

グループホームビウ八幡 自己評価(3階)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭はホーム側で管理しているが、自己管理の可能な方には、少額ではあるが管理をしてもらっている。外出中は本人がお金を支払えるよう、支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて、家族や親戚、友人との電話を取り次いだり、年賀状のやり取りの支援も行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間の両側には大きな窓があるため、通風・採光は取り入れやすく、開放的である。3階デッキでは洗濯物を干したり、園芸を行ったりして、生活感や季節感を取り入れている。	入居者が植えた花が咲く3階のデッキでは、椅子を出してお茶を楽しむこともある。職員は日ごろから、入居者の様子を見ながら、光や音に配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間では、一人でコーヒーを飲んだり、TVを観たり、新聞を読む等、のんびり過ごして頂けるようにしている。また、利用者同士で、トランプやパズル等のゲームを楽しめる空間としても利用している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談して、自宅で使い慣れた家具や生活用品を持ち込んで頂けるようにしている。また、本人が好みのものを購入できる様支援し、自分の部屋として居心地よく過ごせる様に努めている。	備え付けのベッド、カーテン、クロゼット、エアコンの他は、本人の使い慣れた家具や好みの調度品でそれぞれ個性ある居室となっている。家族が希望すれば、居室で宿泊することも可能である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口やトイレに手作りの表札を付けて、一人ひとりが自分で行動できる様にしている。廊下や食堂、トイレ等に手すりを設置している他、職員が常に見守りを行い、一人でも安全に行動できる様に支援している。		